

# 四国ツキノワグマ保護プログラム

ツキノワグマの生息する世界で一番小さな島



# SAVE 四 ISLAND BEAR





2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

## 大規模／広域の調査

- ◆ 正確な分布域の把握
- ◆ 人々の意識の把握
- ◆ 普及啓発
- ◆ 現状を打破する方法の検討

## 普及／地域づくり

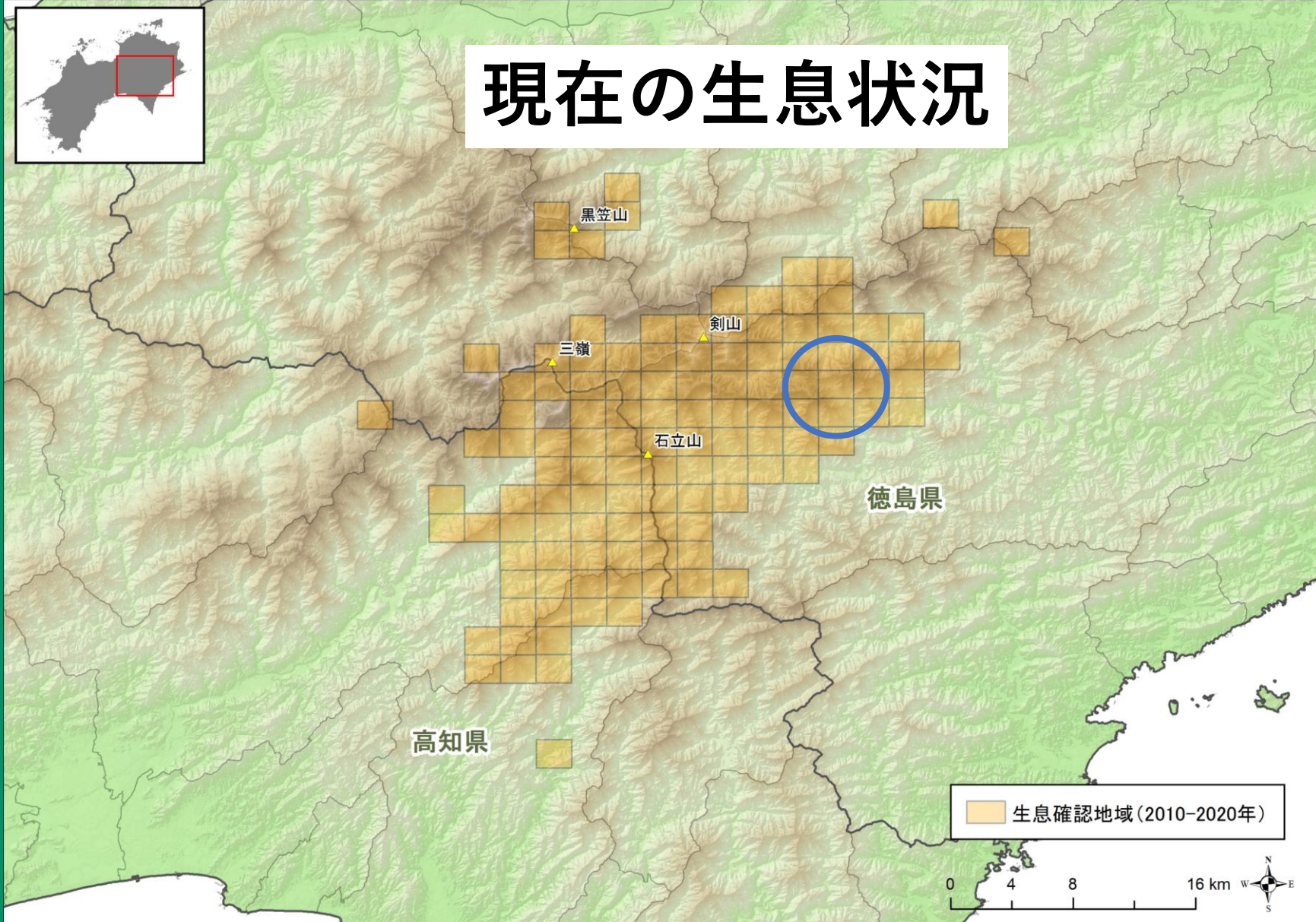
- ◆ 普及啓発
- ◆ 軋轢・被害の予防
- ◆ 保護区の拡大
- ◆ 地域の利益創出

## アクションプラン策定

- ◆ 住民参加型プラン策定
- ◆ 実行体制構築
- ◆ 地域協働保全活動創出



# 現在の生息状況



✓ 推定生息頭  
16～24頭  
(鵜野ほか, 2019)

✓ 生息分布  
高知県・徳島県  
剣山系一帯  
本州からの個体流入  
が期待できない

✓ 30年以上捕獲禁止  
しかし、  
個体数の回復傾向が  
見られない。

# 個体群に対する規制等

- レッドリスト

環境省

絶滅のおそれのある  
地域個体群 (LP)

徳島県

絶滅危惧 I A類 (CR)

愛媛県

絶滅危惧 I B類 (EN)

高知県

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

- 狩猟禁止措置

1986年 (高知県)

1987年 (徳島県)

1994年 (四国全域)

- その他 (条例)

高知県

希少野生動物種

- 広域的な取り組み

2017年 ツキノワグマ四国地域個体群の  
保全に係る広域協議会

2020年 ツキノワグマ四国地域個体群  
広域保護指針

2021年 四国におけるツキノワグマ  
出没対応ガイドライン



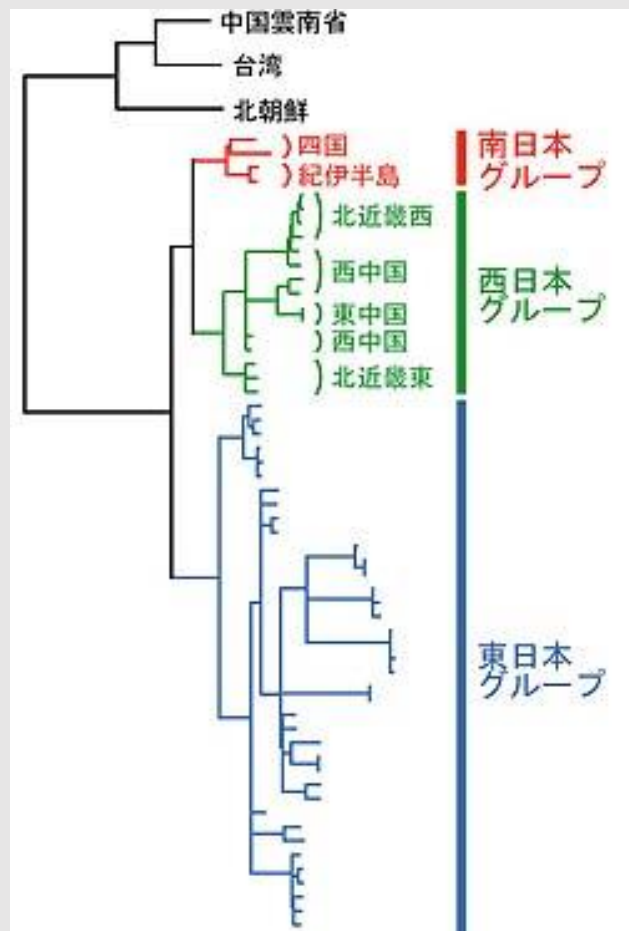
# 国内のツキノワグマの遺伝的な特徴

国内には3タイプ

東日本グループ  
西日本グループ  
南日本グループ

四国は...

紀伊半島と四国を含む  
**南日本グループ**に属する

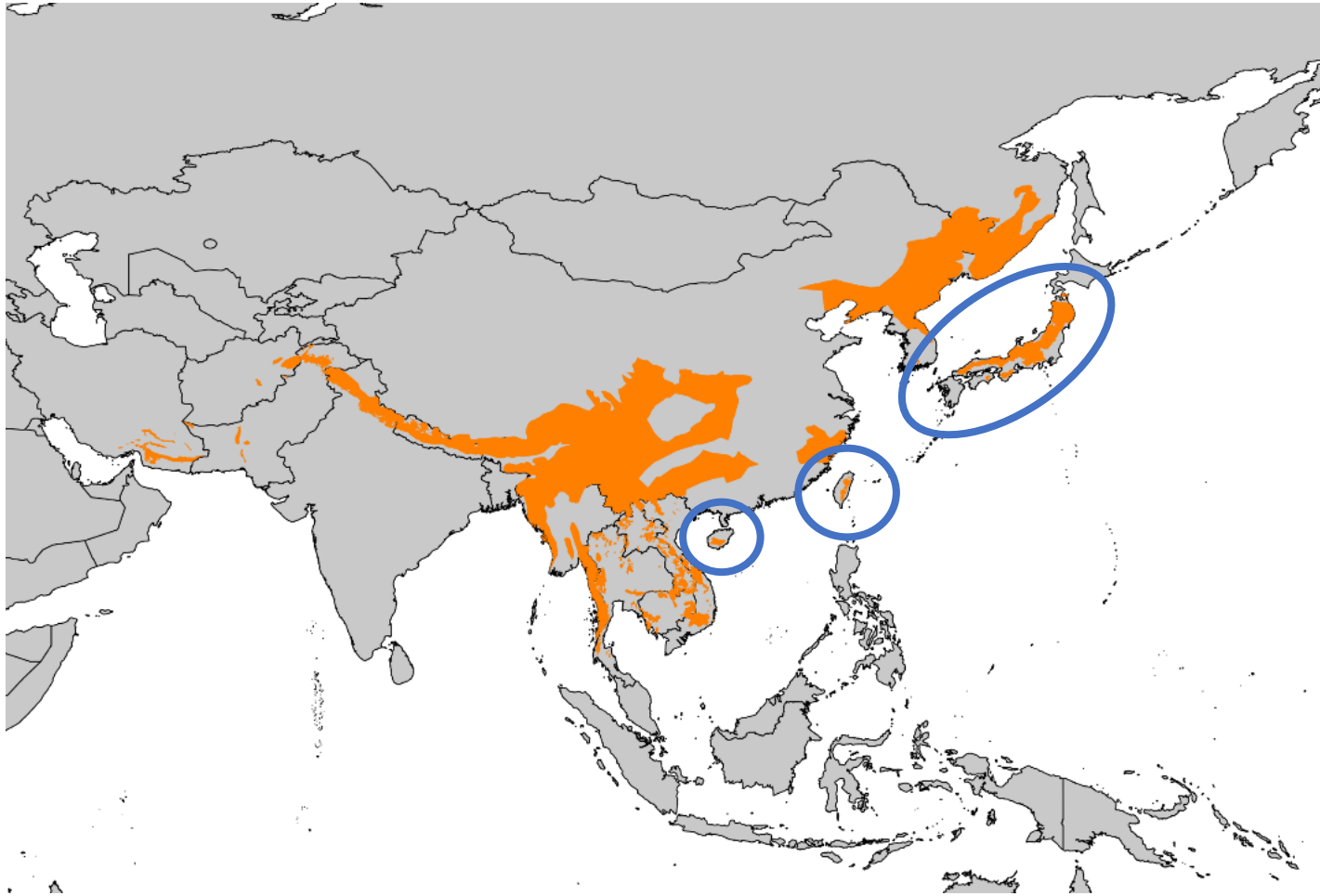


出典：Ohnishi et al.,2009より改変



出典：森林総合研究所HPより

# ツキノワグマの世界的な分布



## IUCN Red List

【VU】 危急種

- ・ 生息地の消失
- ・ 商業的な狩猟・密猟

※例外的に、日本の本州は拡大傾向

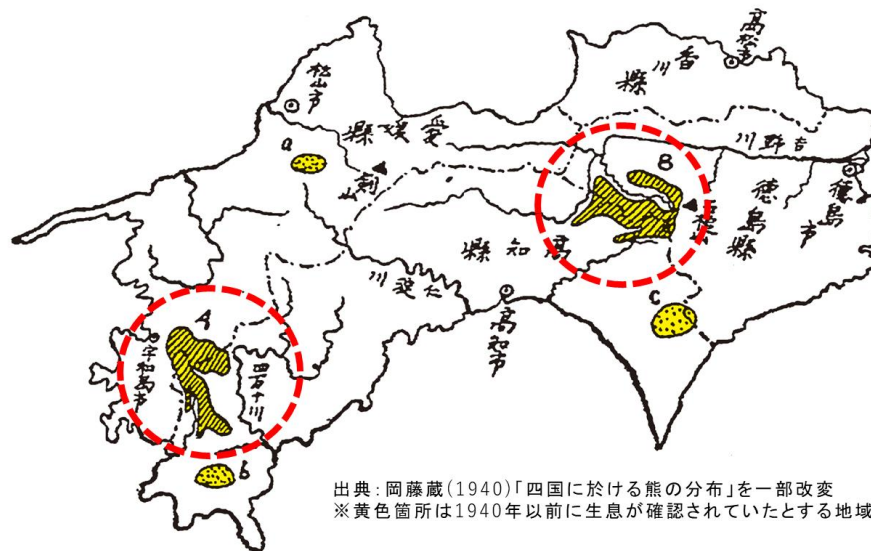
## Island Bear

島嶼部の生息は日本・中国・台湾のみ

ツキノワグマが生息する最も小さい島

- ・ 四国（日本） 18,804 km<sup>2</sup>
- ・ 海南島（中国） 33,210 km<sup>2</sup>
- ・ 台湾（台湾） 36,193 km<sup>2</sup>

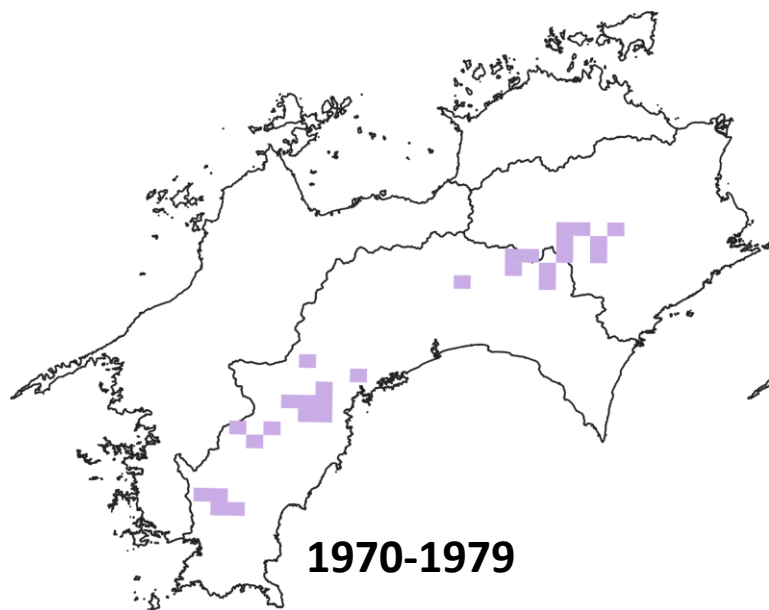
# 生息分布の変化



• 1940年時点…  
A (四万十川源流部)  
B (剣山系)

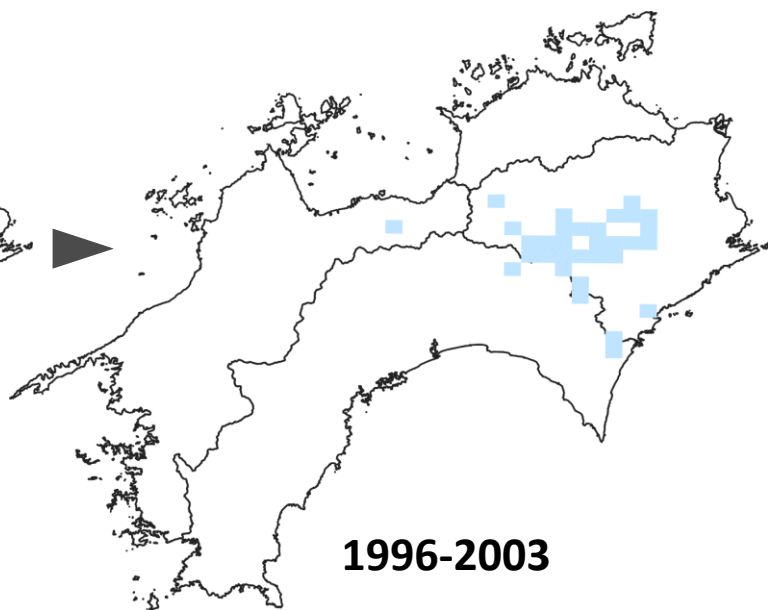
• 1940年以前  
江戸後期～大正時代には  
a、b、cでも生息

出典:岡藤蔵(1940)「四国に於ける熊の分布」を一部改変  
※黄色箇所は1940年以前に生息が確認されていたとする地域。



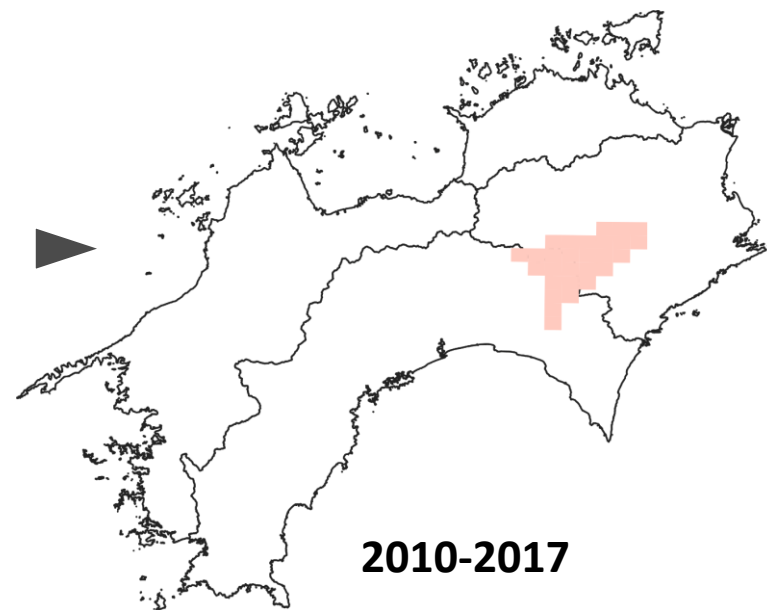
1970-1979

第2回自然環境保全基礎調査  
(1979)



1996-2003

第6回自然環境保全基礎調査  
(2004)



2010-2017

平成30年度中大型哺乳類分布調査  
(2018)

# 個体数・分布の減少要因



©林野庁四国森林管理局



## ・ 生息環境の減少

- ・ 奥地林開発、拡大造林、人工林



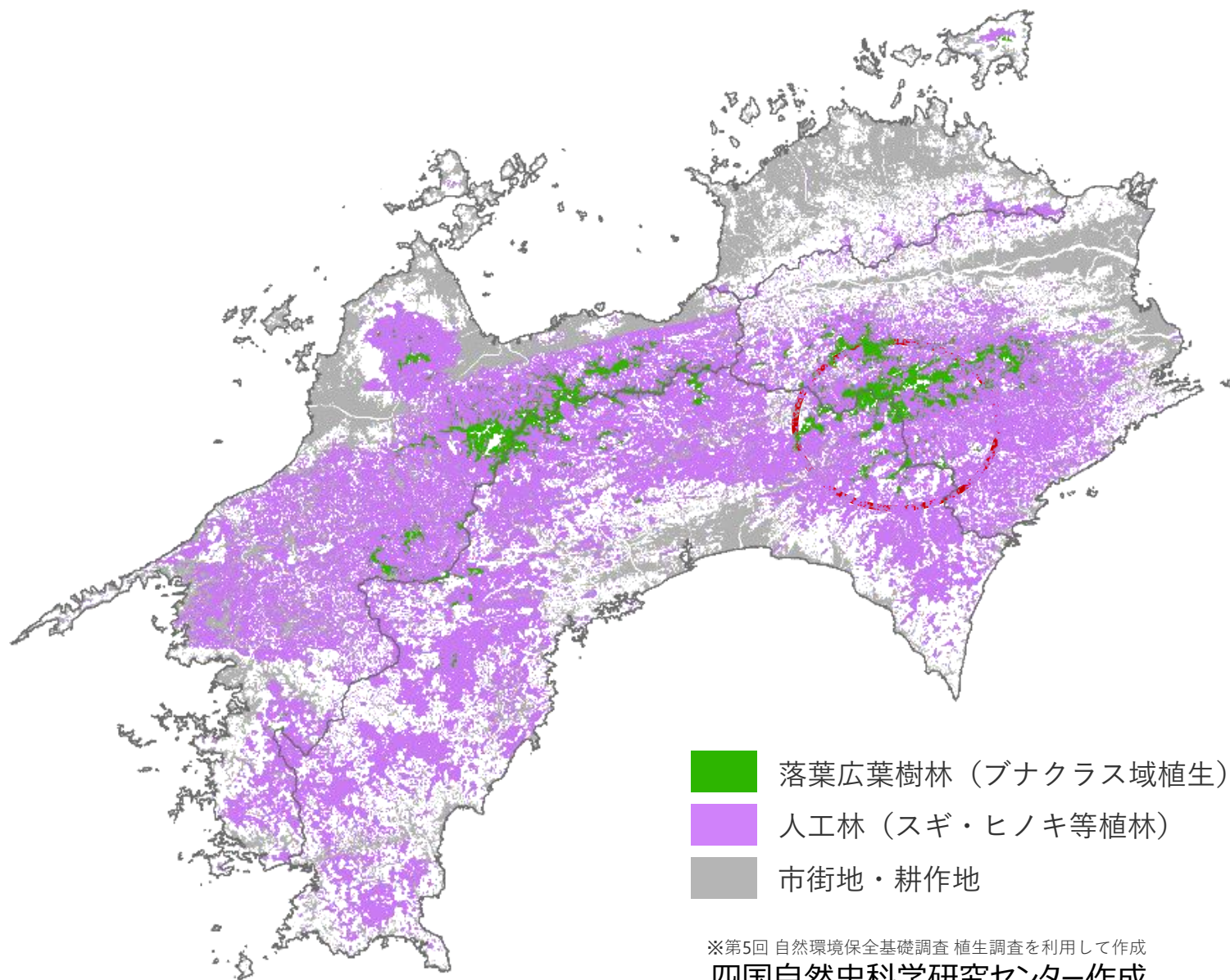
## ・ 害獣としての駆除

- ・ 林業被害、クマ剥ぎ、報奨金





# 生息環境の減少



※第5回 自然環境保全基礎調査 植生調査を利用して作成  
四国自然史科学研究センター作成

## 落葉広葉樹林

まともに残っているのは、  
剣山系と石鎚山系だけ

## 面積

- 剣山系 約270km<sup>2</sup>
- 四国全域 約600km<sup>2</sup>

## 人工林率

- 全国 約40%
- 四国全域 約60%

# 個体数・分布の減少要因



©林野庁四国森林管理局



## ・ 生息環境の減少

- ・ 奥地林開発、拡大造林、人工林



## ・ 害獣としての駆除

- ・ 林業被害、クマ剥ぎ、報奨金



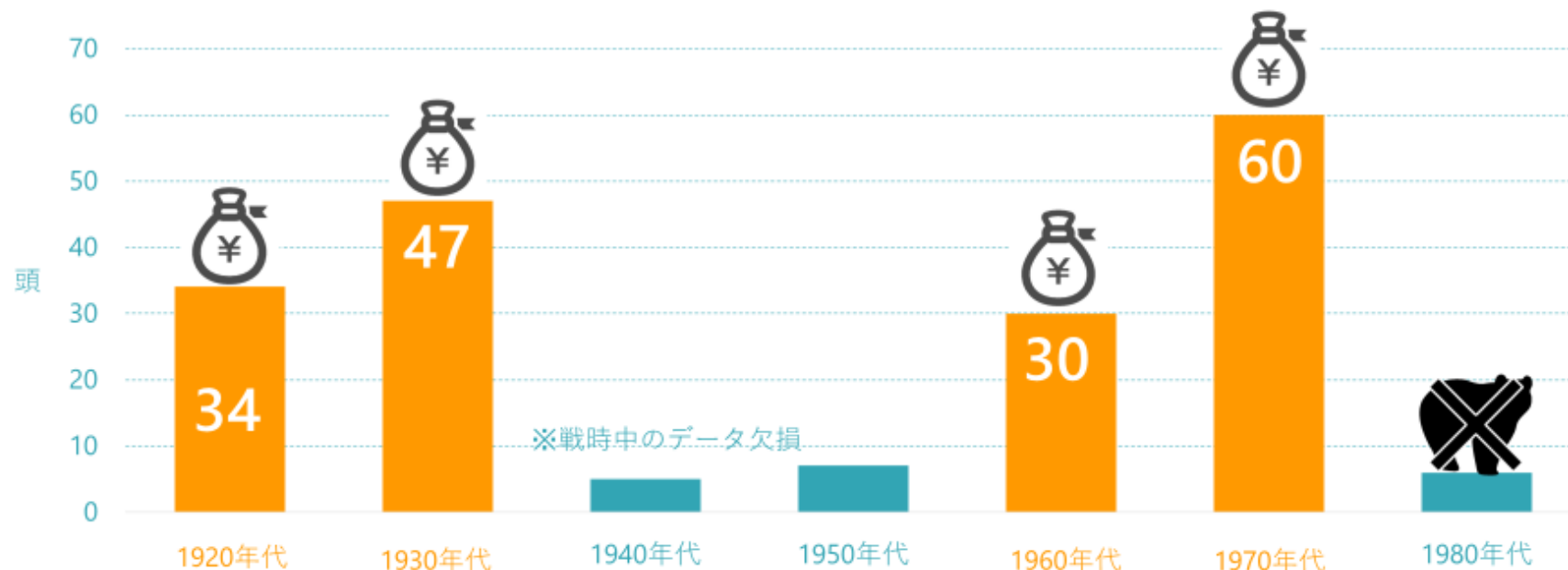




四国自然史科学研究センター撮影



# 捕獲数の推移



報奨金は、1920~30年代、1960~1970年代に出されていた

1977年には徳島県で**1頭40万円**の報奨金が出された記録

1980年代に**捕獲禁止措置**が取られる

四国自然史科学研究センター作成  
Shikoku Institute of Natural History



# 地域の意識調査

WEBアンケート：高知県・徳島県で各250名（計500名）  
2018年1月、2019年10月、2023年3月に実施

Q. 四国にツキノワグマが生息していることを知っていますか？  
また、絶滅の危機にあることを知っていますか？  
⇒約5割は生息を認知、約4割は絶滅の危機まで認知

Q. 四国でツキノワグマが絶滅することについてどう思いますか？  
⇒5割以上が「四国で生息し続けて欲しい」

Q. ツキノワグマに「怖い」イメージがありますか？  
⇒8割以上が「怖い」

★ツキノワグマの大きさ（体重）／食性について  
⇒約7割が正しく知らない



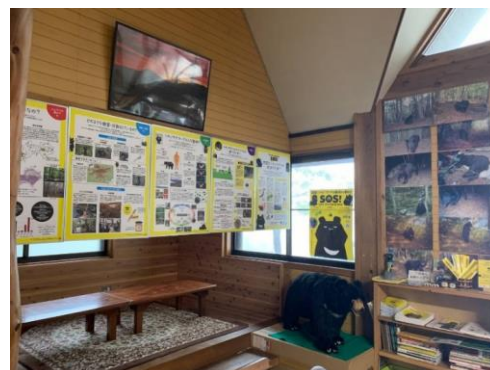
# 地域への情報発信（2020～23年）



情報交流会



啓発ブース出展



啓発パネル@奥槍戸山の家



チラシ（しこくまニュースレター）



シンポジウム



ドキュメンタリー映像

## 主な情報発信内容

- 情報交流会 11回
- 啓発ブースの出展 16回
- 啓発パネルの展示 11施設
- チラシ配布 3700世帯×5回
- シンポジウム開催 2回
- ドキュメンタリー映像制作  
四国で75回以上放映  
全国で250回以上放映
- プロジェクトHPの開設
- 木頭小学校ふるさと学習
- 新聞掲載 22回









# クマ×ハチミツ(養蜂被害)



# クマ×林業(樹皮剥ぎ)



SAVE THE ISLAND BEAR

熊の食糧を供給するまで広大な森林が必要です。ツキノワグマが減少しているのは、森林の減少によるものです。ツキノワグマの減少は世界的にも稀です。ツキノワグマは、四国はツキノワグマが生息する世界で最も小さい熊です。ISLAND BEAR (島熊) と名付けました。





# クマの存在を地域のメリットに







木頭図書館 エントランス



クマの本棚

はじめました。

木頭図書館、スタンプカード

本を借りたら、ポイント集まる!

10ポイント

20ポイント

30ポイント

木頭図書館 オリジナルしおり

木頭図書館 ツキノワグマキーホルダー

Wood Head & 木頭図書館オリジナル 五稜著 (大人用 or 子供用)

- ・貸出し1回ごとにスタンプを捺印します
- ・10P、20P、30Pごとに図書館オリジナルグッズをプレゼント
- ・カードの期限は発行日より1年間です

コロナウイルス感染症対策のため、ご来館の際はマスクの着用・検温・手指消毒の徹底をお願いしております。また、体調不良の際のご来館はお控えください。

お問い合わせは  
那賀町木頭図書館  
TEL:0884-68-2226



# 徳島県那賀町 木頭地区 木頭図書館

- クマの生息地にある唯一の図書館
- 館内にはクマの雑貨やサインを設置
- 地域の情報拠点からクマ情報を発信



# 2022年12月 木頭クマ祭り & シンポジウム開催



# 2024年3月2日(土) 第2回木頭クマ祭り開催！！

四国ツキノワグマ保護プログラム  
SAVE ISLAND BEAR  
ツキノワグマの絶滅を阻止しよう

四国ツキノワグマ保護プロジェクト

## 木頭クマ祭り 2022

四国にはのこり20頭。絶滅の危機にあるツキノワグマを知ろう！

12月10日(土) 10:00~16:00

那賀町木頭文化会館

徳島県那賀郡那賀町木頭和無田マツギ 40



クマ祭りの最後には  
素敵な商品が当たる  
抽選会もあるよ！

クマを知る、学ぶコンテンツがもりだくさん



四国のクマ情報ブース



クマ調査体験コーナー



ドキュメンタリー上映



公開シンポジウム  
保全と地域の暮らしの  
両立を目指して



地元名物を堪能！おまつりブースも大集合！



奥槍戸山の家  
特製カレー



岳人の森  
すだち鶏天



剣山頂上ヒュッテ  
クラフトビールなど

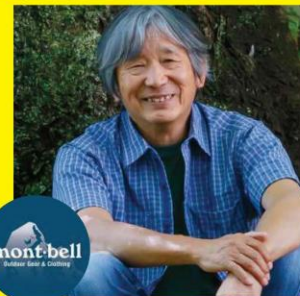


Wood Head×山櫻プロジェクト  
木頭スギ木工製品

13:00~16:00 四国ツキノワグマ保護プロジェクト 公開シンポジウム

保全と地域の暮らしの両立を目指して -木頭から始まるツキノワグマ保全のカタチ-

飯泉知事も  
応援してくるよ！



基調講演 (13:40 頃予定)  
モンベル  
7つのミッション

株式会社モンベル 代表取締役会長兼 CEO  
辰野勇 (たつのいさむ)  
1947年大阪府堺市に生まれる。山一筋の青春を過ごし、69年にはアイガー北壁日本人第二登を果たした。70年には日本初のクライミングスクールを開校。75年に登山用品メーカー、株式会社モンベルを設立した。近年では、野外教育や災害支援の分野でも活動する。日本自然保護協会参与のほか、徳島県では川の学校の講師も務める。

募集人数 100名程度 (シンポジウムのみ席数制限あり)

参加費 無料

事前申込先 下記 QR コードから申してください

参加人数把握のため  
できれば事前申込をお願いしておりますが  
当日飛び入り参加も可能です。

オンライン YouTube ライブ配信

QR コードから再生画面に  
アクセスできます。  
当日 13:00 ~ 配信開始いたします。



共催：(特非) 四国自然科学研究センター、(公財) 日本自然保護協会、日本クマネットワーク、木頭図書館  
後援：那賀町

シンポジウムの  
内容は裏面で！



# クマ類保護及び管理に関する検討会 への期待

- 北海道・本州も地域毎に状況が異なるが、四国は更に大きく状況が異なり、積極的に個体数を増やすための保護施策が必要な危機的状況。
- しかし、自治体と民間だけでは、予算・体制が課題で、科学的かつ効果的な対策が不十分。この点は他地域と同様。



- 地域毎の異なる状況に、科学的かつ効果的に対応が推進される機会に！  
⇒国の積極的な支援と関与
- 「指定管理鳥獣」指定の検討と同時に、四国地域個体群の「希少鳥獣」指定や「希少鳥獣保護計画」策定等の検討が必要。